

令和5年度 札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会を開催

札幌開発建設部では、幾春別川総合開発事業及び雨竜川ダム再生事業について事業費・工程監理の一層の充実を図るため、コスト縮減策やその実施状況、事業の進め方等について学識経験者等のご意見を頂く場として、「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」を開催いたしました。

➤ 開催日時 令和5年8月8日（火）10：20～12：00

➤ 開催場所 北海道開発局職員研修室 会議室

➤ 議 題

(1) 幾春別川総合開発事業について

(2) 雨竜川ダム再生事業について

(3) まとめ



「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」委員名簿

◎委員長（敬称略、五十音順）

名前	役職等
石井 吉春 いしい よしはる	北海道大学公共政策大学院 客員教授
◎泉 典洋 いずみ のりひろ	北海道大学大学院工学研究院 工学院院长
向田 直範 むかいだ なおのり	北海学園大学 名誉教授
矢部 浩規 やべ ひろき	国立研究開発法人土木研究所 寒地水圏研究グループ グループ長

※石井委員は当日の委員会には欠席されました

(1) 幾春別川総合開発事業 議事の概要

事業の進捗状況、今年度確認している変状等による事業への影響並びに事業費の増減見通し状況について説明を行い、委員より意見を頂いた。

頂いた意見を踏まえ、引き続き事業監理する旨の説明を行った。

○事業の概要

- ・実施箇所：北海道三笠市
- ・事業期間：昭和 60 年度～令和 12 年度
- ・総事業費：1,667 億円

○事業状況

- ・総事業費約 1,667 億円の内、令和 6 年以降の事業費は約 368 億円であり、第 4 回計画変更後にコスト増減がありました。これまでの増減を合算すると約 32 億円縮減の見通しとなり、総事業費の内数に収まっている。
- ・引き続き、今後の物価上昇等に留意し、総事業費および全体工程の監理に努める。

○事業の進捗状況について

- ・降雨による変状等、再発防止に努めていただきたい。
- ・変状等の対策は、約 32 億円のコスト縮減額の縮減額があるので大丈夫ということか。
→縮減額や備えとして計上している部分での対応となると考えている。変状だけではなく、今後の物価等上昇がどのように影響してくるかを注視し事業を進める。
- ・新桂沢ダムの試験湛水にあたっては、各観測機器類のデータ等を整理し、ダム本体の安全性を検証していただきたい。また、貯水池周辺の地すべり対策箇所の安全性についても、特に積雪期の試験湛水であることに留意し、貯水位上昇・下降時の挙動を把握の上、安全性の確認をしていただきたい。

○コスト縮減について

- ・ECI 方式の採用がコスト縮減に有効であると評価される。今後のダム工事発注においても活用が期待される。
→各ダムにおいて有効と判断されれば選択されるものと考えられる。
- ・労務費や資材費の高騰、大雨等の自然現象の不確定要素には、引き続き留意いただき、試験湛水に向けて、事前に危険性がわかっている場所はしっかり対応し施工を進めていただきたい。

○まとめ

- ・新桂沢ダムの試験湛水にあたっては、本体、地すべり対策工の安全性について、積雪期であることにも留意しつつ、しっかり検証できる体制を構築した上で、着実に実施していただきたい。
- ・三笠ぼんべつダムは、今後、基礎掘削における不確定要素が明らかになると思われるので、それらの事業費・工程への影響を今後の委員会ですっかりと報告していただきたい。
- ・今後もコスト縮減等の事業監理に努めていただきたい。

(以上)